

授業の成果と課題（令和3年度 教育制度論）

教職臨床特支系（教育臨床講座）・山田 誠

1. 授業の概要

（1）受講者

この科目は教員免許状取得のための必須科目である。学校教育教員養成課程初等教育コースの1回生を主な対象とするクラスとして開講された。履修登録者数は109名である。

（2）授業の目的・到達目標・関連するDP

本授業の目的は、すぐれた教員として必須の力量を身につけるため、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項についての基礎理論を理解し、改革の動向を主体的に把握することができるようになるということである。

授業の到達目標は、次の2項目である。

1) 教育の社会的、制度的又は経営的なる事項についての基礎知識を習得し、それらに関する基礎概念を正確に説明できる。

2) 今日の教育改革の動向を自ら正確に把握し、それらの意義・効果・問題点を主体的に考え、それを分かりやすく論述・表現できる。

本学部のディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）のうち関連する項目は、「教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」及び「教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。（思考・判断・表現）」を想定している。

（3）授業概要

まず、生涯教育・学習の視点から、教育の全体的構造（フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな教育）の中に学校教育を位置づけ、他の教育部門（社会教育、家庭教育）との対比を通してその特質を把握する。次に、教育システムの諸機能、教育に関する法規定及び学校安全について検討する。続いて、学校の成立と歴史的多様性、学校体系の歴史の変遷についての理解を図る。さらに、生涯学習社会の構築という改革の動向を理解すると共に、生涯学習社会における学校の役割、

学校と地域との連携の在り方について考える。

（4）授業の方法・形態

対面授業が可能な場合、配付資料や板書を用いた講義形式中心の授業であるが、視聴覚教材や、発問、受講者の意見発表等を一部取り入れている。加えて、受講者との双方向性を確保するとともに、受講者における授業内容の理解・定着や思考の深化を促す手立てとして、毎回授業の最後に、コメント（振り返り）カードへの記入を求め、優れた記述等を紹介している。また、授業時間外に図書館等を利用した自己学習・発展的学習を行った成果をコメントカードに記入・報告することを奨励している。その記述内容も含め、コメントカードの記述は、評価の対象としている。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、本クラスは受講者数が多いことを考慮し、対面授業を実施したのは11回目の1回だけで、他の回はMoodleを利用した遠隔非同期型で実施した。上記のコメントカードへの記入は、遠隔授業では、授業コメント（小レポート）というかたちで、毎回提出を求めた。

2. 授業評価の方法

最終15回目の遠隔授業のなかで、次のような2つの質問に答えるかたちで記述を求め、受講者による授業評価を実施した。

「この授業の第1回から前回までの内容をよく振り返り、復習した後、次の2つの質問に答える形で、まとめの授業コメントを記述してください。

（質問1）①この授業を通して学ぶことができたこと、考えが培われたと思えることは、どのようなことですか。②また、そうした成果を生かして、今後教職を目指すうえで、あるいは教師として、取り組んでいきたいことを教えてください。いずれも、具体的に分かりやすく記述してください。

（質問2）授業でよかった点、あるいは、こう改善するとよいというご意見を、記述してください。」

3. 結果

本稿では、授業に対する受講者の評価をより直接的に尋ねた質問2を中心に結果を示す。質問1については、次の1例を挙げるに留める。

（質問1）

①学べたこと、②今後取り組みたいこと

①この授業を通して学校教育の構造、そして求められる変化について学ぶことができたと考え。一番大きな変化だと感じたことは従来の学歴社会ではなく現在は生涯学習に重きを置かれるようになったということである。これによって学校は知識を詰め込む学習を進めるのではなく、一生涯を通じて学習を続けるその土壌づくりにも取り組む必要が生まれた。具体的には、学校で習得できる知識のみで完結するのではなく、社会に出たのちも活用できる学習を推進することである。例えば、英語などは一生涯を通じて学ぶことができ、なおかつそれを活用できる場面も多いし、郷土史について学ぶことで現在の地域に存在する問題点について学ぶことができる。これによって退職後も地域問題の解決にボランティアなどの活動で貢献することができる。今現在もこのような生涯学習に取り組んでいる社会人、またはリタイア後の方はたくさんいる。これまでの学校のみで学習を終えて社会に出て退職したのちは悠々と過ごすという方は減ったと思うが、これからは今以上に生涯学習に取り組む人を増やせるような環境づくり、土台作りをしていく必要があると考えた。

②①を踏まえて私が今後取り組んでいきたいこと、そして教師になったのちに取り組むべきことは学校外での活動の場を増やしていくこと（具体的には在学中であればボランティア活動であり、教師になったときには地域との関係づくりである）である。生涯学習の基盤となるのは地域のコミュニティであると考え。退職後に大学に行って学ぶ人もいるが、それは決して簡単なことではないし、経済的な理由でできない人もいる。だから身近なところに年齢関係なく学びを提供できる場所をつくっていくことが重要だと考える。それぞれの地域に英語を学べる場を作ることで、地域問題の解決のための勉強会を開くこと、そしてその解決に向けたボランティア活動をサポートすること。これらに学校が、そして教師となったときに自分自身も積極的に企画、参加していくことが非常に重要になると考えた。その中に子供も参加することで、将来自分がしていく学習についてイメージをつかむことができたり、年齢関係なく学ぶ場を提供するという目的達成にも貢献出来たりすると考える。

（質問2）

〈授業でよかった点〉（*抜粋）

- ・良かった点は、日本だけでなく外国と比較して教育を捉えていたこと、分かりやすい言葉の表現で書かれていたこと、課題の量が適切であったことである。
- ・この授業はノートを用意し、板書から自分の考えまでノートに記載することが求められた。ノートに板書をまとめたり、自分の意見を考えて書いたりする作業はインプットしたものをアウトプットするのにかなり役立った。本来であれば、対面授業を行う科目であったと考えるが、遠隔授業でも学べることは多く、非常に勉強になった。
- ・資料が綺麗にまとまっており、見やすかったです。そのおかげで内容も頭に残りやすかったように思います。特に終盤の授業内容がとても印象的で面白かったです。国際関係に興味があるので、自国のみならず他国の教育制度を学習できたので、とても良い機会になって嬉しかったです。
- ・大学一年生の未熟な“学校”や“教育”といった概念を正しく壊していただき、教員としてのより広い視点を得ることができました。また、歴史や制度について触れていく中で、自分自身の考えを深めていったり正したりすることができたことも非常に大きな収穫だと感じています。
- ・授業で学んだことと、自分の考えや経験と重ねて考える活動が良かったと思う。学習前と学習後で自分の考えがどのように変化したのかをずることができ、興味深かった。改めて、自分で考えるという過程が学習において重要だということを感じた。また、資料を読むだけでなく、自分でノートにまとめる作業があることで理解が深まったと思う。
- ・課題を出した後にはしっかりとフィードバックが返ってきたのが良かった点であると感じました。…自分がやった課題に対しての評価が可視化されることで、次の課題に生かすことができました。
- ・授業講義内容が毎回まとめられていて、非常に見やすかったし、課題の中で「調べる」ことを行うことで自分の中の知識をさらに深められた。
- ・蓄積型なので、何度も復習することができ、授業全体の内容を相互に関連付けて学ぶことができたところが良かったと感じた。
- ・対面授業が少なかった分、自ら「主体的に」興味関心の芽を見つけ、それらをより成長させていく態度が重要であったと感じており、まさに、生涯教育において必要な「主体的な学びの態度」であると理解していた。したがって、学習者が学習の中心になるという側面からも、この授業の実施形態と内容は関連しており、自分自身の学びの態度を省察できる

という点でよかったと感じている。

・私たちのレポートに対してレスポンスをいただいたことがありがたかった。いただいたレスポンスからまた新たな発見が生まれたため、よい学びになったと思う。また、授業内容に関しては、様々な事例を知ることができてよかった。例えば、ドイツの学校教育制度では小学校から留年制度があるということを知って、様々な考え方があるということがわかり、日本とも比べやすかった。

・この授業の良かった点は、授業資料が見やすいという点である。また、資料だけではなく Moodle 上にまとめが書いてあったり、前回の授業のコメントに対する新しい情報が書かれてあったりしたことがすごく良いと思った。また、穴埋め方式のプリントが用いられているときがあったため、良いと思った。穴埋め方式のプリントは取り組みやすく記憶にも残りやすいと感じたため、良いと思った。

・授業資料だけでなく、ムードル上に分かりやすい解説文や考えを深めるための手掛かりとなる文があるのが、授業の内容をより深めることができてよかった。

・授業で良かった点は資料が簡潔にまとめられていて、わかりやすかったことだ。また、PDF ファイルで送っていただいていることで、キーワード検索によって自分が今知りたいことを簡単に探し出すことができ良かったと思う。対面でなかったことが非常に残念だが、中身が結構重たいものだったので、家でじっくりと復習する機会もでき、深い学習となったと感じている。

・オンライン授業という点で資料が与えられていてじっくり考える時間があったのが良かったし、課題で、学んだことを言語化してインプットすることができたのが良かった。文字数もちょうどいい量だったのでとてもやりやすかった。

・前回の授業コメントで多く取り上げられていた内容について次の授業で詳しく説明していただき、学びを深める良い機会づくりになった。また、学習作業についても詳しく書かれていたので、スムーズに活動を行うことができた。

・授業を通して、多角的な視点から教育制度や指導法の在り方について学ぶ取り組みは非常に面白く感じた。特に、現代教育と発展だけでなく、現代の教育制度が築き上げられてきた過程を学んだことは、知らないことも多くあったと同時に、現代の教育のシステムの理由や有効性を学ぶことが出来た。また、専門的な意見や様々な文献から学ぶことが出来た事で、一つの分野に対して多種多様な考えから学ぶことが出来た点は非常に良かったと思う。

〈改善点についての意見〉（* 抜粋）

・一度対面授業を経験しましたが、やはり対面授業の方が理解が深まって、授業が面白いと感じることができました。感染状況が悪化していたため学校での授業は難しいだろうなどは思っていたのですが、できることならもう少し対面授業をしたかったと思います。法令などについては、キーワードに線が引かれていたり、穴埋めになっていたり、わかりやすかったです。Moodle の画面で、大事なところが太字になっていてわかりやすかったです。太字の部分が多すぎて逆に読みにくいときがありました。

・教育制度論は履修している人数が多くて対面ですることが難しかったのが少し残念でした。授業の補足で Moodle 上にたくさん文章が書いてあったのが、少し読みづらかったので資料のように Word や PDF で添付していただくともっと分かりやすくなると思いました。

・対面授業だと聞ける豆知識などもあると思うので、その点はもっと知りたかったと思いました。

・改善点についてはそれほどないけれど、コメント提出の代わりに毎回小テスト(Moodle で教問、選択式でなど)を行ってもいいと思いました。感想と言われても難しい内容の授業もあったし、小テストで自分の頭に入っているかを確認したりしたかったからです。

・資料の分量が週によって大きく異なり、それによって、取り組む学習時間も変わったため、できるだけ分量を同じにするか、期日を調節するなどして、週当たりの勉強時間が一定になればよいと思った。

・ムードルでの非同期型遠隔授業の際、資料の配布だけで講義動画がなかったと思うので、動画で先生が詳しく解説することでより理解が深まったり興味が湧くと思った。

・対面での授業は、オンライン授業より、授業への意欲が湧いた。オンライン授業（非同期）だと、講義資料が多い場合、集中力が途切れることが多々あった。講義を動画にしてもらえると授業を直接受けている感覚がして、集中力が保てると思う。また、受講者コメントをまとめて Moodle に提示することで、考えを深めることができると思う。

・改善点としては、法律の回で穴埋めになっていたが確かにそうすることで法令を自分で調べはするが逆に無意識ではあるが穴埋めに意識がとられてしまった。私たちは穴埋めがなくても授業資料をしっかり読むし為になると思ったから自分から読もう、深掘りしようと思うので穴埋めは必要ないかなと思う。

・基本的に遠隔非同期であったため、プリントを中心とした学習でしたが補助説明プリントや授業コメ

ントなどがあつたため、振り返りが行いやすく、分かりやすい授業でした。改善点としては振り返りを授業コメントだけでなく「授業コメント+授業内容の小テスト」などにしてもう少し評価するものを増やしても良いと思います。

・改善すると良いと思った点は、個人の授業コメントに点数をつけるだけではなく、フィードバックとしてコメントも頂けると良いなどと思った点である。満点がとれなかったコメントは、どの部分を改善すればよかったのかなどということを伝えていただけると、次回からのコメントに役立てることができるのではないかと思った。また、自分のコメントの良かった点も伝えていただけると良いと思った。

・資料だけでも理解できたが、やはり対面授業での授業内容の方が印象に残っているので、非同期授業でも資料の配布だけでなく授業動画を作成していただけたらもっと知識が身に付きやすかったのではないかと感じた。

・字の濃さや、色、下線があつたので重要なところが分かりやすかったです。ところどころ授業資料内で先生の話言葉で説明して下さったところがあつたことで、さらにわかりやすかつたのですが、どの部分を板書したらいいのか少しわかりにくいなど感じたことがあつたので、第一回資料のようにお手数ですが板書の部分を四角等で囲んでいただけたら幸いです。

・この講義では、オンラインでありながら、多くの情報を得て、自身の考えを振り返るという活動が出来た講義であつた。十分に満足できる講義であつた。ここに、さらなる改善を求めるとすれば、意見の共有が出来るとなおよいと思う。大学の講義のほとんどがオンライン授業の中で、すべての講義を一人で考察することになってしまった。他者と意見交換する機会や、他者の意見を知る機会があれば、さらに考えを深めることが出来たように思う。

・最初の方の授業はノートに書き写す部分の指示があつたが途中から指示がなくなつたのでどこを写せば十分であつたかがわからなかつた。

4. 結果の考察と授業改善について

昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルス感染拡大による様々な制約のもと、本授業は、対面授業を実施できた1回を除き、遠隔非同期型で実施した。筆者は、Moodleの使い方ははじめ、遠隔授業にも少しは慣れてきたとはいえ、まだまだできることも限られ、おぼつかないというのが実状である。

授業改善の取組としては、今回も、授業資料

の改訂及び追加作成を行った。また、提出された授業コメント（小レポート）の取り扱い方について、各受講者への評定点の通知や、記述内容に関するクラス全体へのフィードバックの改善、充実を図つた。その際、本授業は受講者数が多いため、ティーチング・アシスタント(TA)を務めていただいた院生さんのご協力を得られたことが、大変ありがたかつた。TAさんに提出物をチェックしてもらい、評点や記述内容、質問等について報告を受けた後、評定やフィードバック、対応の仕方を相談した。

幸い前掲のアンケート結果からは、課題に対する評価のフィードバックや記述内容に対するレスポンスについて、肯定的に評価されていることが分かる。しかし、点数だけでなく、改善すべき点や良かった点についても、個々に伝えてほしいと希望する記述もあつた。

遠隔授業であっても、対面授業と同様に、授業内容を少しでも定着させてほしいという思いから、文章をただ眺めるだけではなく、手も、さらに頭も動かしてもらおうということで、各自ノートを取るよう呼びかけてみた。何をどう筆記するか頭を使う必要が生じるからである。アンケート結果から、これが意外に効果的であつたようだ。これに関連して、ノートを取る際の手助けにもなるかと、最初は対面授業用の板書案も活用し、資料に掲載してみた。ところが、ノートに書き写す部分を毎回示してほしいという希望を目にし、あるいはこれは逆効果であつたかもしれないと、悩ましく思われた。

アンケートに寄せられた改善点としては、対面授業が少なかつたことについての記述や、遠隔授業の場合、授業動画の活用を希望する声もあつた。また、受講者コメントをまとめて

Moodle上に掲載すれば考えが深まるのではないかという意見や、他の受講者との意見交換の機会を求める記述があつた。定着度を確認する小テストを取り入れてはという提案もあつた。

穴埋め形式を取り入れた授業資料があつたことについては、効果的であつたとする意見と、必要ないとする意見の両方があつた。

寄せられた指摘や提案については、さらによく検討させていただき、可能なものは、今後取り入れてみたい。

コロナ禍の中で受講し、回答して下さつた受講者のみなさんに感謝するとともに、アンケートの結果を活かして、引き続き、授業改善に努めていきたい。